

令和4年度 学校評価

令和5年2月に、教育水準の向上を図り、本学院の目的及び社会的使命を達成するために、学則第3条に基づく、学校運営に関する評価を行いました。

評価は、「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」*に基づいて、9カテゴリー125項目で行いました。

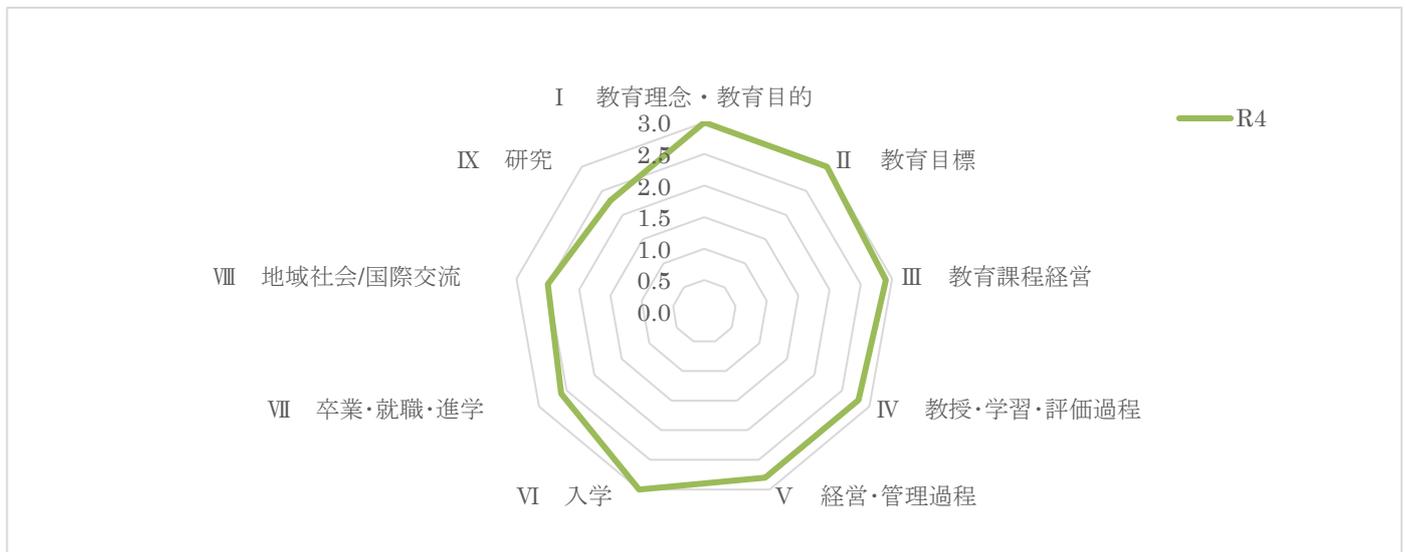
基準を 3点：あてはまる、2点：ややあてはまる、1点：あてはまらない、の3段階としました。

結果は下記のとおりです。

評価項目	評価の概要	項目数	評価の平均 (四捨五入)
I 教育理念・教育目的	養成所の教育理念・教育目的が、教職員と学生に理解され、卒業時の学生の様子に反映されているか。	11	3.0
II 教育目標	教育理念・教育目的と教育目標が一貫しているか。教職員と学生が目標を理解しているか。	7	3.0
III 教育課程経営	教育理念・教育目的の達成に向けて、教育目標が達成できる一貫した科目構成になっているか。	31	2.9
IV 教授・学習・評価過程	教育理念・教育目的の達成に向けて、講義・実習の内容の精選が行われ計画的に実施・評価されているか。	17	2.8
V 経営・管理過程	将来構想を元に計画的に管理運営しているか。学生生活の支援体制が整っているか。	36	2.8
VI 入学	教育理念に基づいた学生の確保のため、適正な選抜と、実施状況の分析をしているか。	2	3.0
VII 卒業・就職・進学	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているか。	8	2.6
VIII 地域社会/国際交流	地域社会のニーズをふまえた社会貢献ができていないか。 国際的視野をふまえた教育がされていないか。	10	2.5
IX 研究	教員の研究活動の実施状況。研究活動の支援体制が整っていないか。	3	2.3
平均			2.8

2003年「厚生労働省の看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針検討会」報告書

「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」C<点検>(評価内容)一覧



総合評価は平均 2.8 点であり、前年度より改善が見られ、全体的にバランスが取れた評価結果となりました。

(各項目についての説明)

I 教育理念・教育目的

令和 4 年度は、教育理念に「県民の医療不安を解消する」という本学院の責務を掲げ、特徴を明確にした。教育目的においては、「規律、責任、友愛と協和の精神」といった創設以来の根本精神を示した。

II 教育目標

教育目標は、学生が理解しやすい文言で表現し、ディプロマポリシー（卒業認定の方針）と連動することで、卒業時のあるべき姿をイメージできるようにした。

III 教育課程経営

教育理念・教育目的の達成に向けて、各分野の考え方や科目設定の理由、科目の進度を吟味した。

IV 教授・学習・評価過程

「県民の医療不安を解消する」という本学院の責務を果たすために、学外科目を新たに創設し、地域で暮らす人々の理解を強化した。

V 経営・管理過程

コロナウイルス感染症対策が求められる中、学生の学びを止めないよう、積極的に Zoom での講義対応を行った。また、学内実習への変更を余儀なくされることも多々あったが、ハイブリットシュミレーターを活用したシナリオ教育を実践し、可能な限りリアルな学びを追求した。さらに、本学院の広報活動として重要なオープンキャンパスを Zoom で行い、地域社会との繋がりを継続した。

VI 入学

少子化の加速に伴い、受験生の確保が難しい状況であるが、積極的に県内の高校に出向き学校説明を行い、学生確保にむけた活動を行った。

VII 卒業・就職・進学

令和 4 年度の卒業時における進路選択状況は、岩手県内就職が 82%、4 年制大学への進学者が 1 名、助産師学校に 1 名が進学する。本学院の卒業生は、岩手県の看護人材確保に大きく貢献している。また、看護師国家試験の合格状況は平成 14 年度から 100%で推移している。

VIII 地域社会/国際交流

令和 4 年度のカリキュラムは、中国語の科目を新設し、国際理解の視野を拡大した。

IX 研究

コロナウイルス感染症対策のため、集合研修や学会に参加しにくい環境であったが、Zoom を活用して積極的に自己研鑽している。